



隈府小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 隈府小」

隈府小学校
学校だより No37
文責 芹川博文
2月6日(金)

10種類もの昔遊びを体験 ～ そういえば「真剣勝負」だった当時の遊び ～



けん玉



竹ぼっくり



あやとり・お手玉



羽子板



竹とんぼ



ビー玉



おはじき



めんこ

「回った!」「できた!」「当たった!」「飛んだ!」・・・体育館と運動場に、1年生の歓声が響きました。約20名もの地域の皆様や保護者の方々に来ていただいたの昔遊び体験は、お祭り広場のような賑わいでした。貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

一つ思い出した感覚がありました。それは、昔の遊びの多くは「真剣勝負」だったこと。例えばビー玉体験で、ある区長さんが、「だいたい、相手のビー玉ば当てたら、もらって良かったもんな。」と言われました。確かにビー玉も、めんこも、勝ったらもらう、負けたらやる、というのがルールでした。コマは傷をつけられたり、ひどい時は割られたりしました。もちろん文句は言いません。それが遊びのルールでした。しかし、それは遊びの中で認められることで、勝負なしでもらったりはしませんでした。それはルール違反であり、当時最も言われたくない言葉、「卑怯」とも言われかねないことでした。昔遊びに、良し悪しの問題というより「文化」を感じました。

子どもながらに必死でした。お気に入りの透明ビー玉、裏に蝋(ロウ)を塗った最強めんこ、そしてカスタマイズした角芯のコマ。自分なりに工夫して、1年～6年まで一緒になって「真剣勝負」で遊んでいました。遊びの中で上級生からたくさん教えてもらい、自分が上級生になった時は下級生に教えました。文句が出ないように、みんなが楽しく遊べるように、チーム分けを工夫したり、時には特別ルールをつくったりしながら。もちろん、ケンカもしながら。

ふと、思いました。今の子どもたちが大人になった時、どんな遊びを懐かしく思い出すのでしょうか。そして、彼らの次の世代に、どんな「昔遊び」を伝えていくのでしょうか。



こま

誰かの勇氣に 思いを返す ～ 最後の児童集会から ～

寒い朝でしたが、今年度最後の児童集会を体育館でして良かったと思いました。

保健委員会の手洗いについての発表の後、たくさん子どもたちが手を挙げて「返し」をしました。

会の最後に、木下主幹教諭が伝えました。「皆さんの『返し』の挙手が、こんなに多くなったことがとても嬉しいです。あまりにも感動したので一言伝えたくになりました」と。

誰かの勇氣ある発表に、思いを返す子どもたち。温かい「空気感」に包まれた集会でした。

